

編 集 後 記

本号ではリハビリテーションにおける精神的諸問題の特集した。「精神的」と「心理的」との区別は必ずしも明確ではないが、前者はどちらかといえば脳の器質的变化を基盤とした精神機能の変化、後者は身体障害に対する心理的な反応の意味で用いられることが多い。リハビリテーションにおける心理的な問題については本巻の6月号に特集をしているので、本号はやはり器質的な基礎をもった精神症状を中心に扱っている。

間下氏らは脳卒中患者にみられる精神症状について述べ、リハビリテーション施行中の入院患者の約半数に何らかの精神症状がみられ、それが大きな障害因子となることを強調しており、柄沢氏の精神医学的考察もまたこれを裏づけている。

竹中氏は、小脳変性症、一酸化炭素中毒、脳血栓、脳脊髄炎後遺症などの多彩な症例を通じて、器質性脳疾患のみかたと対し方について述べられ、柄沢氏のものととも、われわれリハビリテーション医にとっては教えら

れることの多いものである。今村氏は脳性麻痺児における情緒障害と行動異常を分析して、学ぶところが多い。

丸尾氏の女性の上肢切断者の義手装着訓練過程におけるモチベーションの問題は、最初のにべた区分からいえば、「心理」的な面のものであり、座談会も心理的な問題に重点がおかれた感がある。ただこの両者とも、臨床心理学者が扱うのとは違って、医療プロパーのスタッフの仕事の中で直面せざるをえない心理的問題をとりあげているという点で、先の心理特集とはやや違った味をもっているように思われる。

最後になったが今田氏の巻頭言は、各県に一つずつ義務づけられている身障更生相談所がその課せられた総合的判定機能とはうらはらに乏しい人的、施設の基準を強いられ身障診断書発行機関に墮していることの「告発」であり、共感を禁じ得ない。本誌でもこのような行政の問題をもっと多面的にとりあげていく必要がある。（上田 敏）

次 号 予 告 (第4巻第1号)

特 集 脳性麻痺の治療とその限界

脳性麻痺早期診断の問題点

(特に新生児期からの診断と治療)……………長崎大 穂山富太郎・他
脳性麻痺における整形外科手術の適応と効果…ひかり整肢学園 寺 沢 幸 一
北九州市における脳性麻痺児早期療育の体系……………足立学園 高 松 鶴 吉
学童期脳性麻痺児に対する

リハビリテーション・プログラム……………子鹿園 江 口 寿栄夫
脳性麻痺児に対する肢体不自由児施設の役割……………ゆうかり園 浜 田 青 志
脳性麻痺者の職業的能力評価……………東京身障者職業センター 原 田 豊 治
脳性麻痺者と授産施設および福祉工場……………大阪府身障センター 西 川 実 弥
座談会：成人脳性麻痺者の実態と問題点……………整肢療護園 小 池 文 英・他

講 座 リハビリテーション診断学(1)(総論)……………横浜市大 大 川 嗣 雄

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
小 池 文 英
砂 原 茂 一
津 山 直 一
水野 祥太郎

編集委員

明 石 謙
上 田 敏
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
荻 島 秀 男
土 屋 弘 吉
横 山 巖

編集同人

赤 津 隆
青 山 孝
今 田 拓
今 村 哲 夫
江 口 寿栄夫
小 野 啓 郎
河 邨 文 一郎
金 久 卓 也
兼 松 英 夫
五 味 重 春
沢 村 誠 志
杉 山 尚
中 村 裕
野 島 元 雄
間 得 之
長谷川 恒雄
橋 倉 一 裕
平 方 義 信
三 島 博 信
山 内 裕 雄
渡 辺 英 夫
飯 田 卯 之 吉
遠 藤 千 恵 子
小 川 孟
加 藤 一 郎
小 島 蓉 子
笹 沼 澄 子
鈴 木 明 子
高 田 玲 子
陳 慧 玉
(以上五十音順、敬称略)

(細田, 田村, 鹿島)